

2) ジフェニルアルシン酸の分析結果

①A 井戸近傍について

平成 21 年春季、最も高濃度を示したのは A 井戸の南西 10m にある No.39 の深度 30m で 6.6mg-As/L (前回 4.0mg-As/L)、次いで、No.27 の北側に新たに設置した No.201 の深度 30m で 6.0mg-As/L (前回 4.7mg-As/L)、そして、同孔深度 36m で 5.3mg-As/L (前回 4.7 mg-As/L) である。

これまで高濃度が連続していた B-1 井戸は深度 20m で 4.0mg-As/L、その直近の No.37 の深度 30m で 1.6mg-As/L (前回 20.0mg-As/L) とやや濃度が低下している。

2007 年夏季から 5.0~18.0mg-As/L の比較的高濃度で推移していた A 井戸直近の No.34 の深度 30m は、ND (前回 0.14mg-As/L) と前回に引続き濃度が低下している状況にある。

グラウンド北西角 No.27 付近の地下水流れ横断方向に設置した No.201、No.202、No.203 では、最も北側の No.201 の濃度が高く、深度 30m で 6.0mg-As/L、深度 36m で 5.3mg-As/L である。最も南の No.203 では、10m、20m、30m、36m でそれぞれ ND、0.001、0.006、0.005mg-As/L と非常に低濃度であり、北側ほど高濃度となっている。

掘削調査地点と A 井戸の中間付近に既設 No.68、No.69、No.43 の間にライン上に新たに設置した No.204~No.206 (西から No.68、69、206、205、43、204) では、No.204 の深度 30m で 2.9mg-As/L と最も高いが、その西側に行くに従い ND、0.58mg-As/L、ND、ND となり、濃度分布の変化が著しい。

平成 21 年夏季で最も高濃度を示したのは、No.27 北側の No.201 の深度 36m で 7.2mg-As/L、次いで、A 井戸南西 10m 付近の No.39 の深度 30m で、6.0mg-As/L となっている。

対策揚水井戸である B-1 は 1.1mg-As/L、その直近の No.37 の深度 30m で 1.1mg-As/L と B-1 井戸周辺部ではやや濃度が低下している状況が確認できる。

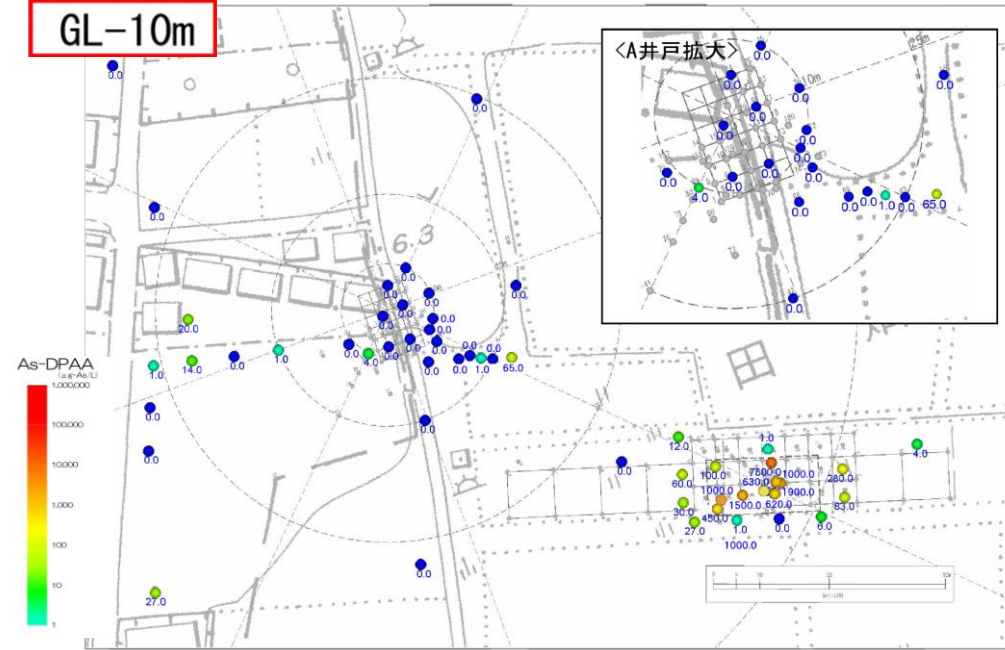
A 井戸直近の No.34 は、春季に引き続きすべての深度で ND であった。

No.27 は、深度 30m で 1.0mg-As/L (春季 1.1mg-As/L)、深度 36m で 1.1mg-As/L (春季 1.2mg-As/L) と濃度変化はほとんどなく、より北側の No.201 の濃度が高い状況も変化はない。

また、2008 年夏季の観測で初めて 0.11mg-As/L (深度 30m) の汚染が確認されたグラウンド南西角の No.28 では、平成 21 年春季で 0.05mg-As/L、夏季で 0.024mg-As/L となり、冬季 (0.001mg-As/L) と比較してやや濃度上昇がみられる。グラウンド南東角の No.29 の深度 30m では、春季で 0.025mg-As/L、夏季で 0.069mg-As/L となり、冬季 (0.002mg-As/L) と比較してやや濃度上昇がみられる。

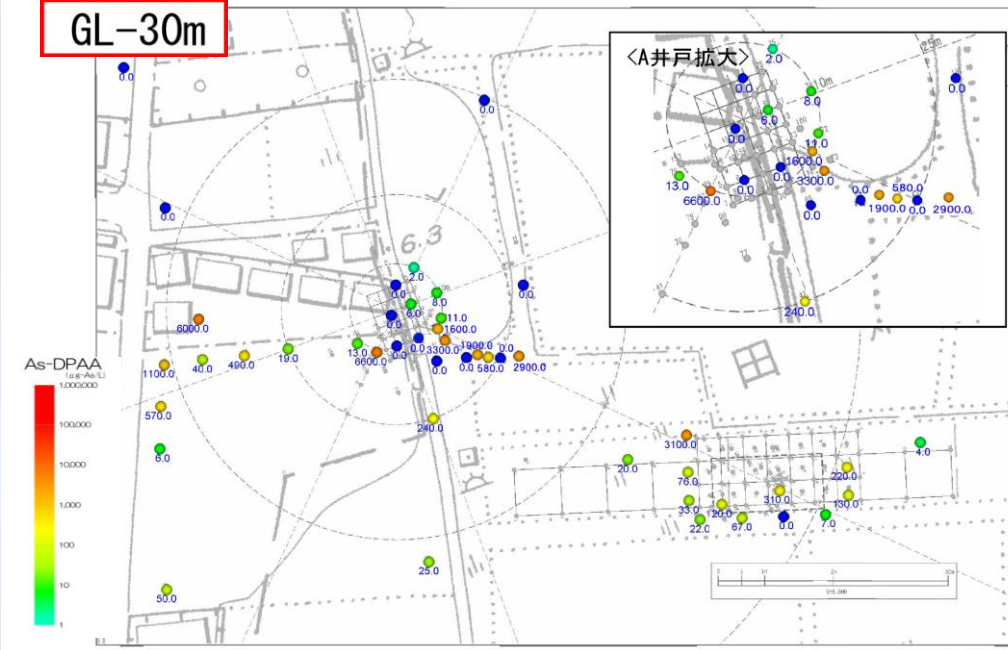
2009年春季(5月)A井戸周辺地下水DPAA汚染状況図

単位:μ g-As/L



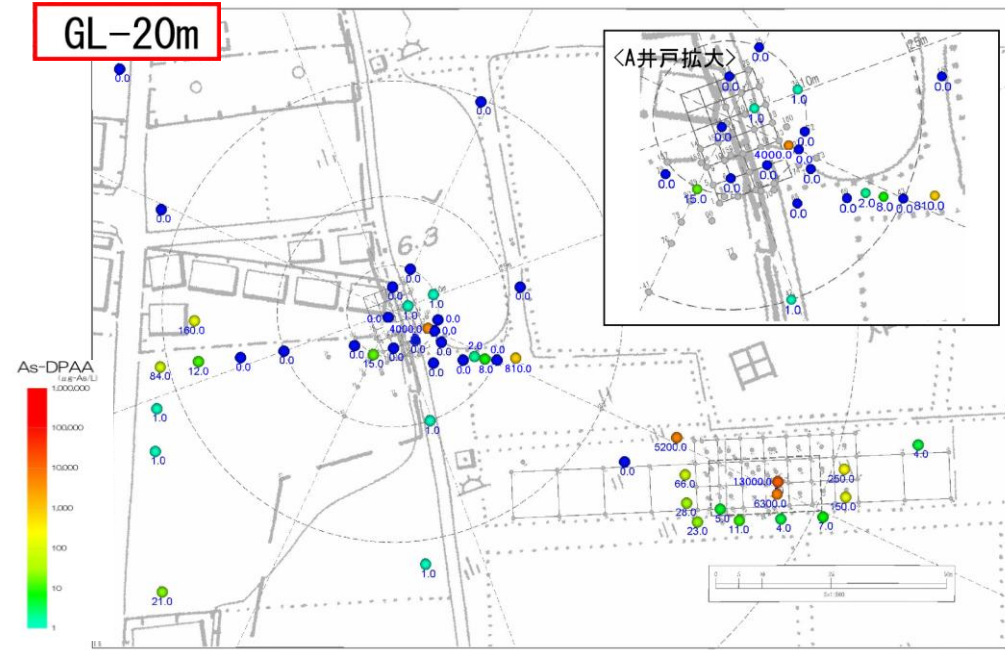
2009年春季(5月)A井戸周辺地下水DPAA汚染状況図

単位:μ g-As/L



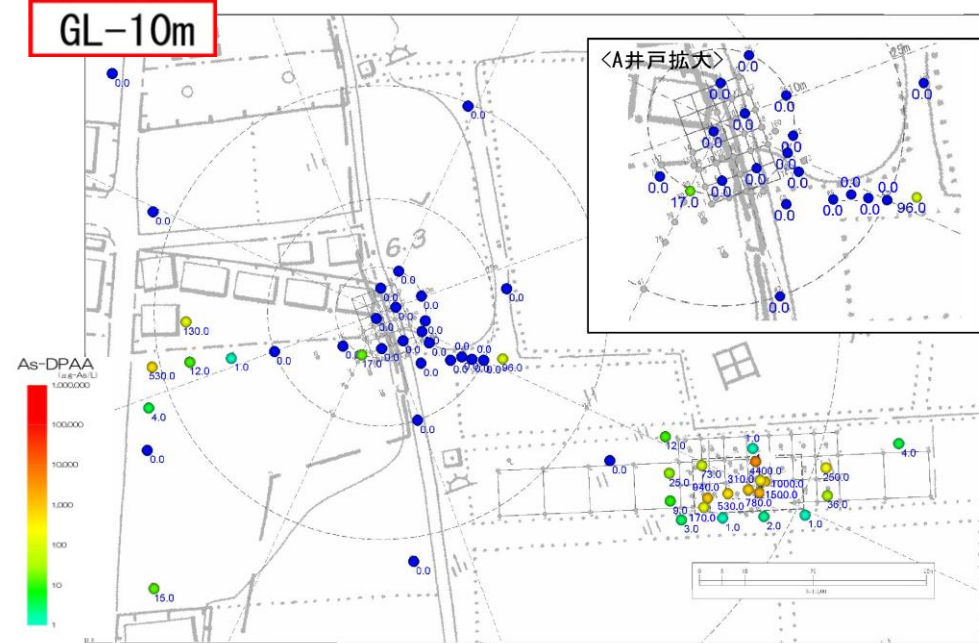
2009年春季(5月)A井戸周辺地下水DPAA汚染状況図

単位:μ g-As/L



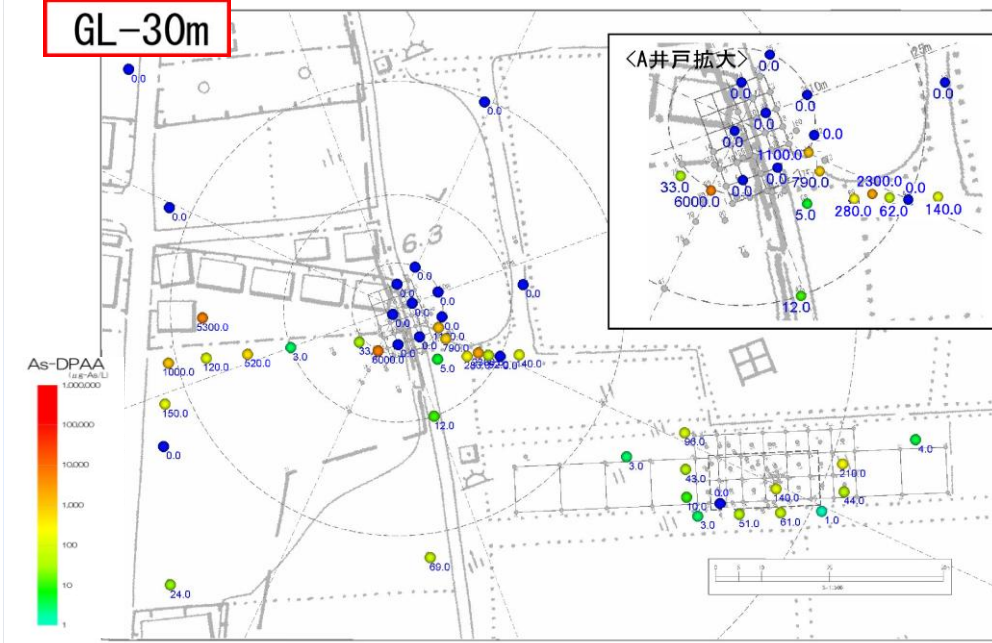
2009年夏季(8月)A井戸周辺地下水DPAA汚染状況図

単位:μ g-As/L



2009年夏季(8月)A井戸周辺地下水DPAA汚染状況図

単位:μ g-As/L



2009年夏季(8月)A井戸周辺地下水DPAA汚染状況図

単位:μ g-As/L

